

中京女子大学

同窓会ニュース

1982・9・1 No. 3

■発行 中京女子大学同窓会

〒474 愛知県大府市横根町名高山55
TEL 0562-46-1291

目次

第4回中京女子大学同窓会総会の報告	1
第5回同窓会総会日程決定	2
新会員の声	2
卒業生の活動状況	4

教職員の動向	5
学科だより	5
クラブ活動状況	6
ヨーロッパ研修旅行に参加して	7
名簿作成のためお願い	8

第4回 中京女子大学同窓会総会の報告

第4回・中京女子大学同窓会総会が昨年の11月8日に皆様の努力で無事終了致しました。決定事項・新役員および講演等について、ここで簡単にご報告させていただきます。

〈議題〉

1. 中京女子大学同窓会会則について
第5条 5.6.内規参照
2. 昭和56年度活動報告
3. 新役員について
4. 昭和57年度の活動方針
 - 1) 同窓会ニュース第3号の発行について
 - 2) 昭和27年度以前の卒業生の名簿整理
 - 3) 会員の名簿整理
5. 会計報告

昭和57年度・中京女子大学同窓会役員決定

顧問 桜井雪子・山本定子・村松幸子・児島文
・山本リエ・小田すず子・盛田菊美・山田
福貴・加藤一子・曾我千代子・中野ふみ子
・木和田福子・草川一枝

会長 高橋知予子

副会長 石川八重・溝口百合子
書記 中野千鶴子・西岡茂子・服部康子・中斎章子
会計 河合きく・永井美奈子・斎藤美代子・藤原保美
監査 戸谷典子・岡田映子
幹事 塚本陽子・加藤真佐子・加藤道子・片岡祐子・久田富子・竹市照代

総会終了後、体育学部教授神谷昭典先生による講演「日本における女子高等教育の発展と中京裁縫女学校」がおこなわれました。創設者、内木玉枝先生の偉大さにもふれることができ、参加者の大きな拍手で終了いたしました。

ごあいさつ 溝口百合子

卒業生の皆様がたにおかれましては、ご壮健にてご活躍のことと存じます。昭和53年2月に発足いたしました中京女子大学同窓会も、はや5年目を迎え、その間、同窓会ニュースも第3号を発行することができました。これも一重に会員の皆様がたや学内諸先生がたのご協力の賜ものと感謝いたしております。

すでに、ご承知のことと存じますが、中京女子大学同窓会発足につきましては、昭和52年度卒業生在学中に大学独自の同窓会をとという熱意ある願いと行

動力、大学側の温かいご援助等があり結実いたしました経緯がございます。しかし、従来のなでしこ同窓会とのかかわりもあり、大学独自の同窓会誕生につきましては、いろいろと紆余曲折があったことはいなめません。そのなかでも先輩諸姉の築きあげられた歴史の理解なくして、同窓会は歩み出すことはできないことでありましたが、(中京地域においてオリンピック出場をはじめ全日本記録保持者として、数多くの先輩諸姉を生み、中京女子体育専門学校の名を全国にとどろかせたことは言うまでもありません。)幸いにも、昭和55年中京女子大学同窓会総会で承認、昭和56年5月、なでしこ同窓会総会において、この旨、高橋会長より報告がなされ、先輩諸姉とともに中京女子大学同窓会を歩み出すことができたことは喜びにたえません。

今後は、先輩諸姉と力を合わせて中京女子大学同窓会を発展させてまいりたいと存じます。

日まぐるしく変動する現代社会のなかで、歴史ある大学が、より社会的に高い評価をになって存続するためには同窓会会員の皆様がたの絶大なるご協力が必要であることは言うまでもありません。

そのためには、まず、会員名簿を作成することが急務であると存じますが、現状は大変困難な状況にあります。これらのことをご理解のうえ、一人でも多くの同窓生のご住所を、大学同窓会事務局宛にお知らせいただければ幸いに存じます。

終りに会員の皆様がたのご健康と増々のご活躍をお祈りいたしております。(お近くにおいでの際は、母校にお立寄りいただきますれば幸いに存じます。)

昭和56年度 会計報告

昭和56年4月1日～ 昭和57年3月31日

収 入		支 出	
前年度繰越金	1,591,999	記念品費	156,000
会費(昭和55年度)	205,000	印刷費	94,500
〃(昭和56年度)	1,720,000	通信費	95,300
〃(第4回総会時)	22,000	会議費	31,714
〃(その他)	10,000	備品費	45,480
銀行利息	29,422	諸経費	77,815
雑収入	800	事務用品費	7,225
		交通費	13,500
		予備費	29,770
		来年度繰越金	3,027,917
計	3,579,221	計	3,579,221

第5回同窓会総会 日程決定

日時 昭和57年11月7日(日)

午前11時～12時

場所 中京女子大学内 第一会議室

今年も大学祭期間中に同窓会総会を企画致しました。皆様、おさそいあわせのうえ、ご出席下さい。

また、総会終了後、同期会を開催されたいクラスは、会場等を準備いたしますので同窓会本部までご一報下さい。大勢の方のご出席を心からお待ち申し上げます。

新会員を迎えて

昭和56年度新会員数

体育学部	体育学科	96名
家政学部	児童学科	106名
〃	食品・栄養学科	21名
短期大学部	体育学科	85名
〃	家政学科	38名
	計	346名

(昭和57年3月31日現在)

新会員の声

一宮市立北部中学校勤務 志水洋子
(体育学部体育学科卒)

この春卒業された皆さんお元気でしょうか。社会人一年生として毎日奮闘されていることと思います。

私は現在、愛知県一宮市立北部中学校に勤務しております。毎日が日まぐるしく一日があつという間に終わってしまいます。大学時代の一日とでは内容も充実度も大きく違い、少しでも気をゆるめると大失敗につながりますが、それゆえ一日が終わった時の疲労感は心地良くも思えます。忙しいとは思っていましたがまさに毎日が戦争のようです。授業はもちろんですが、その他の雑務が多く雑務の間に授業

を行なっているという感じです。今一番心掛けていることは、何事においても今はわからないことばかりですから、まず先輩の諸先生方にお聞きするという事です。わからないままで失敗し、人に迷惑をかけるよりは、こんなことがわからないのかと笑われても理解できるまで聞き、確実に自分のものになりたいと思います。それにしても教えられることの多い毎日です。謙虚な気持ちで頑張りたいと思います。

今年度卒業された皆さんも、いろいろな面で悩んでみえるでしょうが、社会人一年生はおそらく皆同じだと思います。私達にとってこの一年は、人生において大切な一年だと思います。がんばりましょう。

最後に中京女子大学のご発展を心からお祈り致します。

豊田市立衣丘小学校 山田 みどり 勤務 (家政学部児童学科卒)

卒業後、念願かなって小学校の教師となり、現在豊田市立衣丘小学校の第2学年の担任として、子供達と悪戦苦闘の毎日です。

はじめて子供達を前にした時は、足は震え、声もうわずり、逃げだしたい気持ちになりました。そして、1週間経った頃には、子供達を家へ帰した後、気がつくとのどがヒリヒリしているのです。よく考えてみると、子供達の声に負けじと大きな声でどなってばかりだったのです。授業は、「しずかにしなさい。」という言葉だけで終わってしまう毎日でした。そして、このままで一年間うまくやっていけるのだろうかと思うと急に不安になってしまい、憂うつな気持ちで学校に出かける日が続きました。

しかし、今は、大きい声を出すこともなく子供達に接することができるようになりました。これからは、子供達にとって心に残る教師となるよう頑張っていきたいと思っています。

中京女子大学勤務 松原 久美 (家政学部食品・栄養学科卒)

職場は、今まで通っていた大学なので、事情を多少なりとも知っているという点では、仕事上プラスの面もあります。しかし、学生時代と全く生活環境が変わっていないことから、今ひとつ社会人としての認識にかけ、クラブの後輩などから声をかけられると、つい学生気分が話したりすることもあるので

改めねばと思っています。

仕事の内容は、おもに事務で①正確に②わかりやすくきれいに③より速く…の3つをモットーに頑張っています。

また、週に一度ですが、昼休みに職員コーラス(高橋昭弘先生のご指導のもと)で大声をはりあげており、学生時代、4年間合唱部でやってきたこともあって、私にとっては、楽しみの一つとなっています。

名古屋市立富士中学 山本 直美 勤務 (短期大学部体育学科卒)

4月1日から名古屋市立富士中学校の臨時講師として勤務しておりますが、本採用になるために目下58年度採用試験に向けても頑張っています。

臨時講師としては、週に18時間の授業、正課クラブ、課外クラブ、そして3年生の2クラスの副担任と教科以外の仕事も多いので、なかなか忙しい毎日です。自分なりに教員生活を覚悟していたものの、現実はその数倍も厳しいと感じております。

1時間の授業をするにあたり、何時間も教材研究をし授業にのぞむのですが、なかなか自分の思う通りにはいきません。完璧な授業はベテランの先生方でもなかなかできないといわれますが、教材研究を何時間も積み重ね、指導案が完璧に近い出来ばえでも、実際の授業にうつせば半分も達成されないのが現状です。

これから1年間、講師として頑張りと、また、7月に行なわれる採用試験にも挑みたいと思います。

最後に、中京女子大学同窓会のご発展をお祈り致します。

西尾信用金庫勤務 福岡 まゆみ (短期大学部家政学科卒)

短大を卒業して、早くも2ヶ月が過ぎました。

私は今、西尾信用金庫の鳴海支店に勤めています。ぬるま湯のような2年間の短大生活から考えてみると、社会というものはきびしいものです。自分の仕事に対する責任の重大さや人間関係の難しさというものを痛感しています。

私は入庫する前、銀行というところはもっと静かな所だと思っていましたが、立ち働くことが多く、特に月末はそれはすざましいものです。

私の場合、短大では家政を専攻していたのに、就職はそれと関係のないものを選んでしまいました。そのため、今はわからないことばかりですが、少しでも早く一人前の仕事ができるように毎日努力しております。

最後に、母校の発展をお祈り致します。

○就職状況について

昭和56年度卒業生の就職状況は、就職率から見れば、他の女子大とくらべ悪くはありませんが、しかし、その内容から見ますと、決して満足できる状況ではありません。そのため、就職指導を始め、求職開拓、情報の収集等について、全学的構えで取り組むことになりました。諸先輩の皆さまもすでにご存じのことと思いますが、女子大生の就職環境はいつそうきびしさを増しておりますので、諸先輩方のご援助をお願いいたします。なお、本学の卒業生が能力を発揮できるような就職先がありましたら、就職指導室までご連絡下さい。

卒業生の活動状況

大府市立吉田小学校
加藤 裕子
(旧姓城後)
(昭和49年度児童学科卒)



＝「体育の時、リュウ君（一般児童）がヤッペ（障害児童）って早いねって言ったよ。僕のこと本当はもっとおそいと思っていたんだね。」

学校のことを聞かないと話さない子が嬉しかったのでしょうかね。皆に仲良くしていただいているようで私もホッとしています。＝

これは、障害児を持つ母親からの連絡です。私は、大府市で教職について、八年目になりますが、その年数の半分は、障害児学級の担任をしています。心身に障害があるために、小学校の通常の学級における教育では、十分な教育効果を期待できない児童に対して設けられた学級です。その障害の状態や発達段階特性等はさまざまですが、よりよい環境を整え可能な限り社会に参加する人間に育てようというの

がねらいです。しかし、こうした心身障害児が障害児だけのクラスで学ぶには限りがあります。一般の子供たちと活動を共にし、いわゆる交流学习によって生み出される教育効果は大です。

では、障害を持つ児童だけに交流学习の効果はあるのでしょうか。初めて冒頭の文をお読みいただきたいのですが、一般児童のリュウ君が「ヤッペって早いね」そう言った言葉からは、遅いと思っていたヤッペに対して、自分の考えの誤りを正す気持ちがこもっています。一般児童のリュウ君の意識が明らかに変化したのです。そこに私は、交流教育の両面性を見る思いがするのです。互いに接し合うことは心身障害児のみならず、すべての子供にとっても意義深いことだと考えます。

ヤッペ自身は、この日の生活文に＝ぼくは、きょう五年生と体育をやったので、あしこしがいたかったです。＝と書いています。ヤッペは、真面目に一生懸命に体育を頑張っただけで、人の気持ちを変えらることなど思っていなかったのですが、いっしょに体育をやったリュウ君は、その姿を見て、ヤッペに対する考え方を変えました。変えさせたのは、障害児自身なのです。

交流教育が、一般児童にとっても意義が深いと思うのは、こうした喜びがあるからです。一見自分達と違った存在と思いついていた障害児の中に、多くの共通点を見出し、仲間意識を生み、ある時は、障害克服の意欲に触れて、自分自身の生活姿勢や学習態度を正すきっかけをつくる場合があるからです。

先輩、後輩の先生方にこの場をかりてお願いしたいことは、交流教育を難しい事とお考えにならず、自分のクラスの児童にとって、とても得がたい機会であることを理解され、もし、特殊教育を行っているクラスが校内にある場合、クラスで考えられたおたのしみ会、おたんじょう会、給食会食会などに、そうしたクラスの児童を招待していただきたいのです。児童は、相互に触れる事柄に、自分を変えていくでしょう。そして教師自身も。

石川県立河北台商業高校
林 澄子
(旧姓 田村)
(昭和45年度食品・栄養学科卒)



大学を卒業してはや13年目を迎えますが、その間

普通科の高校から現在の商業高校に至るまで家庭科の教師として数多くの生徒達と接してまいりましたが、今さらながらに家庭科教育の重要性を感じているところです。

現在勤務している商業高校は、受験一辺倒やエリート志向の教育状況のなかで、自分の意志ではなく、中学校の先生によって決められて入学してきた生徒が大半を占めているために、入学後も無気力と劣等意識の連続で、中には登校拒否や非行の道を歩もうとする場合もあります。そういったなかで、何とかして若いエネルギーを輝く方向に向けようと努力するのですが、それはなかなか大変なことです。

また、このような生徒達の多くは、なかなか立ち入ることのできない家庭生活にも問題を持っており、まさに家庭科の重要性というものをこの学校に来て痛感させられました。しかし、こうしたいくつもの困難にぶつかりながらもここまでやってこれたのは、これらの生徒達（若い生命のしかも多くの可能性を秘めた生徒達の魅力）にひかれてのような気がします。

自由で伸び伸びとした大学時代、その時のいろいろな出会いが私の人生観の基礎をつくってくれました。昨年から週2回、夜、町の弓道教室へ通っています。忙しい日々の中で、無心に弓を引いていると疲れなど飛んでしまい、活力がわいてきます。ストレスもたまらず充実した日々が送れるのも学生時代に弓道に出会えたからだと思います。

女性が自立し家庭を持つことは果てしなく厳しい道ですが、それでもなお、家庭科教師として、自立した男と女、人間らしい生活、差別のない社会を育くみ創り出す力を培っていく教科であると信じ、今日も教壇に立っています。

(ちなみに、林さんのご家族は、ご主人、お子さん3人、ご両親の7人家族で、家庭の主婦としても、立派にやっています。)

教職員の動向

退職

- 坂上 光男 元体育学部・教授
退職年月日(昭和53年3月31日)
死亡(昭和57年1月31日)
- 饒村 謙 家政学部・助教授
退職(昭和56年9月30日)現在、

病氣治療中

- 鈴木裕美子 体育学部・講師
退職(昭和56年9月30日)福島大学へ

○福井香千代 教務課 退職(昭和57年3月31日)
新任

- 高松 守一 短期大学部・教授(昭和57年4月1日)愛知県立大学から
- 千葉 胤考 家政学部・嘱託教授(昭和57年4月1日)エーザイ(株)研究所から
- 松原 久美 教務課(昭和57年4月22日)
- 松下 光男 学生課(昭和57年4月6日)附属高校から

学科だより

体育学部体育学科 学科長 守能信次

本年度より学部長に高橋正五郎先生が就任され、また、新たに高松守一教授(体育原理担当)をお迎えした体育学部ですが、ようやく四年生の教育実習も終わり、これから水泳実習とキャンプ実習の充実した展開を期して、その計画の最後の検討に入るところです。キャンプ実習は専門の専任教員が得られたため本年より実施の運びとなるものですが、こうした実習の充実に加え、近年、実技や実験に要する機材の整備が特に目立ってきています。このことは学生の教育条件の改善にそのままつながるものであり、またすぐれた体育指導者の養成上、好ましい限りです。

今後とも、先輩諸姉の変らぬご指導、ご後援をお願いする次第です。

家政学部児童学科 学科長 岡田忠之

オイルショック以来教員採用への窓口は、年々せばめられてきて、卒業生で教職につくものが幼小合わせて50%程度になってきています。それも臨採を入れての話です。何とかして多くの学生に教職の道についてほしく、採用試験向きの特別講座などを計画したり、就職についてのガイダンスを強化して、1、2年生のうちから計画的な勉強を始めてもらおうとつとめております。

家政学部食品・栄養学科 学科長 江藤 義春

卒業生の皆さんには益々ご健勝にてご活躍のこと
と思います。

一時期は志願者数も減り、学科の将来に対して一
抹の不安さえも感じられた方があったのではないか
と思いますが、最近では学生数も年々増加の傾向を
示しております。これは一つには私たち人間の健康
問題が大きくクローズアップされてきたことによる
ものと思われます。

近年の食品・栄養学科卒業生の就職状況をみま
すと、やはり教員と栄養士が多く、そのほかではと
くに健康食品やレトルト食品を製造している食品会
社の栄養アドバイザーなどとして就職する者が増え
ています。また、これから卒業していく在学生も日々
活気に満ちて勉学に取り組んでおります。

卒業生の皆さんのより一層のご精進を祈るととも
に食品・栄養学科の益々の発展を期して学科だより
といたします。

短期大学部体育学科 学科長 大北 英紀

「社会体育の指導者を主な目的としている当学科
も日頃の諸先輩方の建設的なご意見を十分に反映さ
せることができ年々充実してまいりました。これも
卒業生の皆様の心強いご支援あってのことと教員一
同深く感謝しております。

また、本年4月から新しく高松守一教授（体育原
理、体育史）を迎え指導体制もより一層充実してま
いりました。近年、学生の就職の動向として「職種
を選び過ぎる」という傾向も当学科の卒業生につき
ましては減少し、社会体育指導者として現場で自己
の力を十分に発揮し現代社会の要請に応える指導者
として成長しています。今後も一人でも多くの有能
な指導者の養成に教員一同指導にあたる覚悟でござ
います。一層のご支援をお願いします。卒業生の皆
様のますますのご活躍をご期待申し上げます。

短期大学部家政学科 学科長 伊藤 康子

卒業生のみなさん、あいかわらず若々しく輝く瞳
をもち続けていらっしゃいますか？

林先生も健康を回復され、熱のこもった講義ぶり
はむかし以上、教室職員の依田さんが附属高校に配
置替えになり、松原久美さんが後輩をリードしてく
れています。種田先生もこの一年で定年、今のうち

に会いに来て下さいね。学科長は伊藤にバトンタッ
チされ、いっそう忙しそうに動きまわっています。

エネルギーあふれる短大家政学科に、みなさんの
身近な人を送りこんで下さい。

幸せな日々をあなたに！

図書館だより

昭和38年、大府に大学が移転して以来、まもなく
20年を迎えようとしています。図書館も、開設時の
蔵書が今では、34倍にもふえ、購入雑誌は250種類
にのぼっています。また、利用者も年々増え、狭く
なったことから、新図書館建設の要請が高まり、現
在、その着工にむけての計画が進んでおります。

昭和58年度・入試日決定

区 分	願 書 受 付	試 験 日	試 験 場
推 薦 選 考	57年11月1日(月) ～11月30日(火)	面接・実技 12月12日(日)	本 学
試 験 選 考	1次 募集	58年1月10日(月) ～1月25日(火)	2月3日(木) 本 学 地 方
	2次 募集	58年2月21日(月) ～3月8日(火)	3月15日(火) 本 学

お近くに、本学を希望する方がありましたら、よ
ろしくご指導下さいますようお願い致します。

クラブ活動状況

ニュージーランド遠征に参加して

体育学部体育学科4年 大谷 千春
(フィールドホッケー部)

私は、5月7日からおよそ20日間にわたるニュー
ージーランド遠征に、全日本のメンバーとして参加いた
しました。この遠征は、15日から22日にかけて行
われたトーナメントへの参加はもちろんですがその
他に、今年11月に行われるアジア大会での優勝へむ
けての全日本チームの強化が主な目的でした。

試合は、各地転戦のものは3勝2引分と調子が良
かったのですが、大会では7位という成績でした。
遠征前から、せめて1勝をとという声も聞かれました
が、世界選手権などでも上位を占める強豪の中では、

1勝しかできませんでした。その原因はいろいろありますが、まず体力の差が考えられます。どの試合を通じて、前半は互角に戦っていても、後半に得点されるのです。また、経験年数の違いもあり、20代後半や30代、子供を持つ選手などが多い他国にくらべ、日本は平均年齢20才、国際試合の経験が少ない者ばかりで、本来の力を出しきれませんでした。

私は、試合ではフォワードでレフトインサイドのポジションをやっていましたが、調子が悪く得点に結びつくプレイができませんでした。順位決定戦では、ニュージーランドU23に2対1で勝ちましたが、それまで、なかなか勝てず、半ばあせりと不安の入り混じった苦しい状態での最後の1勝だったので、選手権は涙を流して喜びました。私は、大会で自分の納得のいくプレイができなかったことや、何試合もすぐベンチに下がり、最後の試合に出られなかったことのくやしきで、泣けてきました。ですから、アジア大会こそはと思いました。

今回の遠征は、大会以外に各地転戦し、その土地の方の家にホームステイという形でお世話になりました。それぞれの土地でパーティを開いていただき、楽しくすごしました。ホームステイや各国選手との会話は、下手な英語とジェスチャーではありましたが、心のふれあいを感じました。

ニュージーランドは秋でしたが、雨季でもあり毎日のように雨が降りました。そして試合もほとんど雨の中で行われ、めったに中止にはなりませんでした。それは全面芝のグラウンドだからであり、また、ホッケー人口が多いこともあって、うらやましいかぎりでした。雨が降っても、子供から老人まで試合を見に来ており、驚くことには皆ルールを知っているのです。

今回のニュージーランド遠征は、私にとり全てが貴重な体験でした。今後は、これに満足することなく、初心にかえって頑張ろうと思っています。また、クラブだけでなく、自分自身の生活もしっかりみつめ直していきたいと思っています。



クラブの成績を調べていたところ、在学生の中でニュージーランド遠征に参加した者がいることを聞き、さっそく取材いたしました。

皆様の中にも、このような経験をされた方もみえると思いますが、どうぞ暖い声援をお送り下さい。

昭和56年度

ヨーロッパ研修旅行に参加して

体育学部助教授 守能 信次

本年3月、本学ヨーロッパ研修旅行の学生引率を命じられ、マドリッド、ウィーン、ジュネーブ、パリ等の各主要都市をまわり、大変貴重な体験をさせていただきました。どの都市も私がフランス留学中に既に訪れていましたが、それだけに何か里帰りのような感じもして、かつて見た風景を再び目の前にしてなつかしい想いにかられたものです。

この旅行でいろいろなことを学びましたが、とりわけ強い印象を受けたのは、私たちを現地地で案内してくれた日本人女性ガイドの生き方でした。私も留学期間を通じて外国で生きることの精神的苦痛を厭うほど味わいましたが、彼女たちもその苦痛を私に率直に打ちあけてくれ、と同時に、それを乗り越えて生きているといった自信のようなものをも感じさせてくれました。一見、弱々しく見える女性がバスの運転手にスケジュール的な指示をし、ホテルマンにサービスについての文句をいい、かつ訪問地の観光ガイドといった仕事を立派にやってのける。しかし、その私生活を覗けばいろいろと不安もあり障害もあるようで、いまさらながら本学の理念とする「女性の自立」について、あれこれ考えさせられた次第です。

私にとって今日のヨーロッパ旅行は、外地で懸命に生きる日本女性を見に行ったようなものでもあり、その意味においても一つの大きな収穫があったといえます。

体育学部体育学科4年 野々山好子

初めての海外経験……見るもの触れるものすべてが新鮮で、今でも強く頭の中に焼きついています。

出会う人々ほとんどが言葉の通じない外人ばかりで、初めのうちは恐ろしく不安でした。しかし、顔の表情や手振り見振りでお互いの気持ちが案外通じ合い「言葉は違っても同じ人間なのだ！」と感じさせられるものがありました。

今まで、テレビや雑誌でしか見たことのないヨーロッパを目前にした時は、信じられない興奮の連続でした。観光では、フラミンゴの力強さと華麗さ、ウィーン少年合唱団の透き通るような声、ムーラン・ルージュの大胆な演技やイルカのショー、凱

旋門を目指して続くシャンゼリゼ通りなど一つ一つの場面がくっきりと思い出されます。凱旋門に登り、パリを見た時、放射線上に広がっているパリの街は、どことなく陰気で、私の考えていたような華かさは見られませんでした。

日本との違いを強く感じさせたものは、清潔感に欠けているという点で、無意識にゴミを捨てたり、食べ物でも裸で売ったりしていることが大変気になりました。特に、スペインは、きたない街であると感じました。

外国を訪れることは、自分自身の視野を広めると共に日本と違った文化を肌で感じることで最高に有意義なヨーロッパ研修旅行でした。

今回は大学で毎年実施しているヨーロッパ研修旅行に参加した人に感想を聞いてみました。それぞれ違う思いを胸にいただいた旅立ち、そして大きな収穫を得て帰ってきた様子がうかがえます。

私達も、こんな旅行に参加してみたいかがでしょうか。



名簿作成のためのお願い

現在、同窓会名簿発行のための準備を進めております。しかし、同窓生も多数にのぼり、また卒業後の住所移動もはげしく、住所の把握に困難をきたしております。そこで、大変恐縮に存じますが、卒業後住所変更のありました方は同窓会事務局までお知らせ下さい。(お知り合いの方についてもよろしくお願い致します。)

なお、下記のような形式でお願いしたいと思いますので、ご協力下さいますようお願い致します。

学部 学科 年度卒

氏名	現住所	電話	勤務先(職種)	勤務先住所	電話
(旧姓)	〒	()		〒	()

編集後記

第3号を発行するにあたり、皆様からもっと卒業生の声を載せてほしいという要望がありましたので、努めて多くの方の声をとりあげたつもりです。

これからも、ご意見、ご希望をどしどしお寄せ下さい。

なお、お忙しいなか、原稿をお寄せ下さいました皆様には心からお礼申し上げます。